

現場研修事業の概要

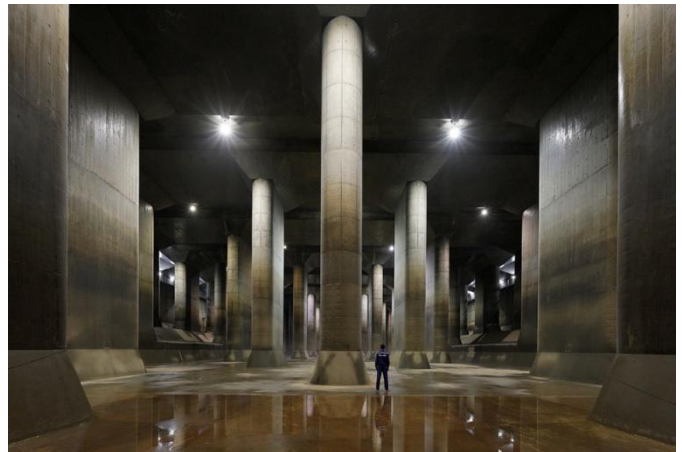
1. 首都圏外郭放水路

…………… 埼玉県春日部市

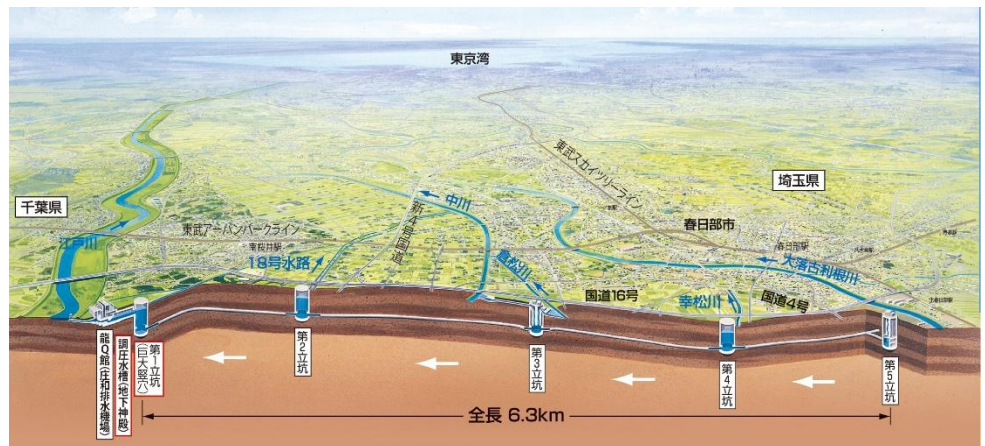
首都圏外郭放水路は、洪水被害を防止するために整備された世界最大級の地下放水路である。中川、倉松川、大落古利根川、18号水路、幸松川などの中小河川が増水した際、洪水の一部を施設内に貯留するとともに江戸川へ流すことで流域の浸水被害を軽減する役割を担っている。

中川・綾瀬川流域は、利根川、江戸川、荒川などの大河川に囲まれた低平地であり、水が溜まりやすい皿状の地形となっている。このため、古くから洪水被害を受けやすい地域であった。また、河川勾配が緩やかであることから水が海まで流れにくく、大雨時には水位が下がりにくいという特徴がある。さらに近年は都市化の進展により、雨水が地中に浸透しにくくなり、降雨時に雨水が一気に河川へ流入することで洪水が発生しやすくなっている。

首都圏外郭放水路の整備により、流域の浸水被害は大きく軽減され、浸水する家屋数や被害面積は大幅に減少した。長年洪水に悩まされてきた地域において、重要な治水施設として機能している。



また、本施設はインフラツーリズムの先進的な事例としても知られている。平成28年3月に国が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」を契機として、江戸川河川事務所や春日部市などで構成される利活用協議会が設立された。平成30年8月からは、国の防災施設としては日本初



となる民間事業者による社会実験型の見学会が開始され、年間を通じた見学体制が整備された。

現在は年間10万人の見学者を目標として、新たな見学コースの設定や季節行事に合わせた特別ライトアップの実施など、官民連携による取組が進められている。

2. 八潮市道路陥没事故

…………… 埼玉県八潮市

1. 事故の概要

令和7年1月28日、埼玉県八潮市中央一丁目の県道松戸草加線の交差点において、中川流域下水道の下水道管の破損に起因すると考えられる道路陥没が発生し、走行中のトラックが転落する事故が起きた。

- 1) 日時：令和7年1月28日午前9時49分頃
- 2) 場所：主要地方道 松戸草加線（県道54号）中央一丁目交差点内（図1.1）
- 3) 陥没の規模：最初に生じた陥没穴は開口部で長さ約8m、幅約4m、深さ約5m



図1.1 事故の位置

2つ目の陥没穴は1月29日午前1時3分頃に発生し、長さ約11m、幅約7m、深さ約8m

1月30日午前2時37分頃には、これらの2つの陥没穴が一つに結合して長さ約30m、幅約20m、深さ約10mに拡大（図1.2）

4）事故の状況：1名乗車のトラック1台が転落

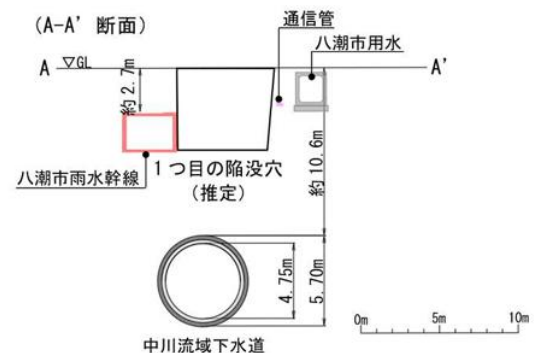
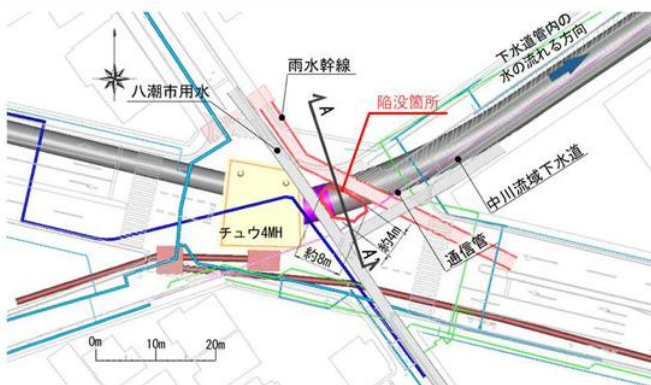


2. 道路陥没の要因

地下に空洞ができる原理については、土砂が重力作用によって下方に移動することで地下に空洞が発生することから、1つ目の陥没穴の深さ約5mより深い位置に吸い込み口がないと道路陥没は発生しない。したがって、以下の①及び②より、今回の道路陥没は、埼玉県が管理する中川流域下水道の硫化水素によって腐食した下水道管に起因するものと考えられる。

① 1つ目の陥没穴は、下水道管の直上で発生した。（図2.1）

② 陥没深さより深い地下埋設物は下水道管のみであり、かつ土砂を引き込む可能性のある他の要因（他の地下工事、坑道跡、自然生成の水みち）は確認できない。（図2.2）



3. 復旧の状況と今後の対応

事故発生後、県道松戸草加線は全面通行止めとなっていたが、令和8年4月、暫定2車線での供用が開始された。

また、今回の事故が発生した中川流域下水道の中央幹線の下流部は、口径が大きい、水量が多い、埋設深が深い、代替性がないといった課題があることから、抜本的な対策が必要なため、維持管理性やリダンダンシーの確保等も踏まえて、複線化の整備を行っていく方針が示されている。